

# タンポポ保育園わくわく体験事業 (福岡地区幼児体験活動実行委員会)

## 1 プログラムの概要

### (1) ねらい

- 仲間と共に海や浜で遊び、自然の恩恵に触れる中で逞しさや自然を大切にする心を養う。
- 家族と離れ、友達や保育者と過ごすことで自信を付け、精神的自立を促す。

(2) 期間・場所 平成19年9月4日～9月6日(2泊3日)・少年自然の家「玄海の家」

(3) 参加者数 園児：48名 引率者：20名 指導者：6名

### (4) 日程

時間	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
4日 (火)					出 発	到 着	地 引 網	バーベキュー (昼食・片付け)				休息 室内遊び 夕べの集い	夕 食	夕 食	キャブ パーティー	入 浴	就 寝	
5日 (水)		起床 朝の集い 朝食			海水浴		昼食		焼き杉工作				夕 食	夕 食	室内 遊び	読み 聞かせ	入 浴	就 寝
6日 (木)		起床 朝の集い 朝食		砂の 芸術		出 発												

### (5) 主な活動状況

#### ア 地引網体験 (1日目 11:00～12:30)

- 準備するもの タオル
- 子どもの様子
  - ・高校生と一緒に楽しく網を引くことができた。
  - ・獲れた魚はすぐに刺身にして食べたが、「とてもおいしい。」という声が出たところから聞こえ、先を争って食べていた。
- 留意点 危険な魚も入っていることがあるので、すぐに魚には触らない。



#### イ 海水浴 (2日目 9:30～12:00)

- 準備するもの 安全ロープ
- 子どもの様子
  - ・波に飛び込んだり、友達と一緒に泳いだり楽しく活動していた。
  - ・休憩時間も砂浜で砂遊びやカニ獲りをし、時間を上手に使って遊んでいた。
- 留意点
  - ・深い所に行かないように、安全ロープを張る。
  - ・子どもの様子を確認しながら活動する。



#### ウ 焼き杉工作 (2日目 13:30～16:00)

- 準備するもの 焼き杉工作用材料(加工された杉板)、木工ヤスリ、ガスバーナー
- 子どもの様子
  - ・木工ヤスリで板を削るのが難しかったがそれぞれで工夫しながら削っていた。
  - ・作品を見せ合い、とても満足していた。
- 留意点
  - ・棒ヤスリの使い方に注意する。
  - ・ガスバーナーを使うので、火に近づかないことと、焼いた杉板をすぐに触らない。



## エ 読み聞かせ（2日目 19:30~20:00）

- 準備するもの 机、椅子
- 子どもの様子 集中してお話を聞くことができた。
- 留意点 読み聞かせボランティアの方々と対象者、時間、内容、場所等の打合せを密に行う。



## オ 砂の芸術（3日目 9:00~10:30）

- 準備するもの 移植ごて、バケツ、スコップ
- 子どもの様子
  - ・グループで協力し、砂浜にある石や流木を使い、思い思いの作品を作っていた。
  - ・鑑賞会では、お友達の作品の素晴らしさに触れるとともに、自分の作品を認められる喜びにも浸っていた。
- 留意点
  - ・海には絶対に入らない。
  - ・ごみ拾いを行い、環境についても目を向けさせる。なお、危険物等もあるので、安全面の説明も事前に行う。



## 2 子ども・保護者等の感想

### (1) 子ども

- 海で遊んだり魚を獲って食べたりして楽しかった。
- みんないたから、ママがいなくても寝る時もさびしくなかった。一人だったらさびしいけど、みんないたから、また行きたい。
- 先生と一緒に寝て、うれしかった。

### (2) 保護者

- 体験活動が終わり、それ以前と比べ、自立したように感じます。
- “考える”という事を意識するようになったように感じます。
- 日常生活の中では、なかなかできない貴重な体験ができて、とてもよいことだと思う。

### (3) 指導者等

- 大人が声をかけすぎている、子ども同士の協力面が薄かった。
- 室内レクリエーションにおいて、発達段階的に指導者の意図をあまり意識せずに、初めからもっと自由にさせてあげると良かった。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

- 保育園の仲間と寝食を共にすることで、協力することの大切さや楽しさを味わうことができた。
- 高校生との交流は、単なる交流というだけでなく、日頃接することのない高校生と触れ合うことで、幼児にとって貴重な体験となった。また、「可愛くてたまらなかった。」「小さい子と活動できて楽しかった。」という高校生の感想から、高校生にとっても年下の子どもと接する楽しさを実感し、子育ての喜びや大切さ、親の役割等について自ら認識を深め、考える機会などにもなったのではないかと考える。
- 野外での活動が多く、天候に左右される内容（波が高かったり雨だったりするとできない等）だったが、自然の厳しさや、対応の仕方等、自然体験の魅力に十分浸れた活動だった。
- 年中組と年長組と一緒に宿泊活動を行うことで、年長児が年中児のフォローを行うなどの姿が見られ、責任感や年長としての意識が育まれた。

### (2) 課題

- お泊まり会で学んだことを、今後の保育園や家庭での生活にどう生かしていくかを保護者との連携を含めて考えていかななくてはならない。